

第十一回

東京

延年之會

宝生能楽堂

会場

日時  
2023年8月19日  
午後一時開演

翁

小笠原弘晃  
三番叟  
披丰

大名 萩  
牛 語  
中之 船

第十四回

# 東京 延年之會

えんねんのかい

狂言 おきなさんばそう

## 翁 三番叟

翁 友枝 昭世  
三番叟 小笠原 弘見  
二番叟 野村万之丞  
千歳 野村万之丞

笛 松田弘之  
小鼓 大倉源次郎  
鑓鼓 清水和音  
鑓鼓 大倉恰士郎

大鼓 亀井広忠  
後見 友枝雄人  
佐々木多門

大島輝久  
狩野了一  
長島茂  
内田成信

「能」にして、能にあらず」とされる、神能ジャンルの特殊な演出、歌舞伎舞踊にも取入れられている他、各地の郷土芸能・神事として保存され、極めて大きな広がりを持つ神事・儀礼芸能で、天下泰平を寿ぐ「翁」はシテ方が、五穀豊穡を祈る「三番叟」は狂言方が勤める。「三番叟」は若者の男社舞で華やかに舞んだ囃子に始まり、「おおさえ、おおさえ、おお。喜びありや」と謡い出し、律動的な笛・小鼓・大鼓の演奏で、足拍子を踏みながら、明るく力強く舞う「採の段」と、黒い面を付けた老体での厳かな舞「鈴の段」の二つからなる。



小笠原 由嗣  
Tadashi Ogasawara

能楽師狂言方和泉流 公益社団法人 能楽協会会員  
日本能楽会会員 重要無形文化財総合指定保持者

1965年生まれ  
野村萬(人間国宝)、故八世野村万蔵、九世野村万蔵に師事  
2006年より毎年千葉県の神話民謡琵琶を創作狂言に劇中演出。NHK「職技」「カーネーション」他に、芸能、所作指導。2012年より3年間ウェンズリア大学で狂言とイタリヤ伝統伎術劇のシンポジウム・WS・公演を行う他、フランス、ドイツ、オーストリア、ブラジル、アメリカ等、海外公演多数。本年5月には、日越外交関係樹立50周年記念事業としてベトナム公演に出演。  
現在、萬狂言関西支部代表



小笠原 弘見  
Hiroaki Ogasawara

能楽師狂言方和泉流 公益社団法人 能楽協会会員

2001年生まれ  
初世野村萬、九世野村万蔵及び父に師事  
3歳で初舞台「朝顔」(大名・野村萬)を演ず  
2017年「千歳」「奈須与市語」を抜く  
2014年よりパリ留学、狂言普及活動他、フランス地方音楽院CRR Boulogne-Billancourtにて音楽を学ぶ。パリ第3ソルボンヌ大学舞台芸術学科在籍  
フランス各地での公演他、ハンガリー、ブラジル、アメリカ、ベトナム等海外公演多数  
阪本順治監督作品「吉永小百合主演映画「北のカナリアたち」(2012年)出演  
阿監督作品「藤山直美主演映画「団地」(2016年)出演

公演日 2023年8月19日(土)  
午後1時開演 (開場30分前・終演15時45分)  
東京都文京区本郷1-5-9 ☎ 03-3811-4843

会場 宝生能楽堂

料金 S席 12,000円 A席 10,000円  
B席 8,000円 学生席 3,000円(U-26)  
※未就学児は入場不可。



●JR「水道橋駅」東口より徒歩3分  
●地下鉄有楽町線三田線「水道橋駅」A1出口より徒歩1分

チケット取扱い



アトリエ オガ. ☎ 06-6942-1577  
ticket@atelier-oga.com  
萬狂言 https://yorozukyogen.jp

主催・制作  
お問い合わせ

アトリエ オガ. (https://atelier-oga.com)  
☎ 06-6942-1577 ☒ contact@atelier-oga.com  
協力 ●株式会社萬狂言 / 株式会社藤原プロデュース  
ホロンPBI金蔵院菓子

題字：書家 岡西祐宗 / 表紙グラフィック：小笠原弘見 / デザイン：Hato (coonyang.com)

此度、小笠原弘見が狂言師としての重要な登壇門である「三番叟」を初めて勤めさせて頂くことと相成りました。  
記念となる愚問答(初夜)に際し、日本能楽会の重鎮お二方にもご出演頂きました。「三番叟」に先行する「翁」を友枝昭世(初夜)に際し、日本能楽会の重鎮お二方にもご出演頂きました。「お勤め」下さいます。  
敬喜致します野村万蔵(人間国宝)がこれまで度々演じ詳細の高い「萩大名」大名役を、今回弘見、小笠原由嗣が勤め、公演中に茶屋のお役にて披露頂きます。また野村万蔵師(一藏家当主)ほか一門御出演の賑やかな公演となります。  
是非ともご高覧願うべく、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

狂言 はぎだいまよう

## 萩大名

大名 小笠原 由嗣  
太郎冠者 野村 善之介  
茶屋 野村 萬

田舎大名が太郎冠者の案内で、京都清水の庭園の萩の花見に出かける。そこでは主人に当座の和歌を所望されることを予想した太郎冠者は、聞き覚えの一首を教えるが、大名は覚えられない。そこで幾つかのサインを決めておく。しかし庭園に着くと、大名は失言を重ね、肝心の歌もとりもどらぬ。あきれた太郎冠者は途中で退散してしまい、一人残った大名は…。この演目はおらかな笑いを誘う狂言の代表曲の一つとして良く挙げられます。

## 船中之語

宝生 欣蔵

能「船弁慶」劇中にて特別演出としてワキ方武藏坊弁慶が主君・義経と共に頼朝の追っ手から逃れる為に乗船した際に語る非常に面白い事です。  
ワキ方下掛宝生流宗家・宝生欣蔵師にご披露頂きます。

## 蝸牛

山伏 小笠原 由嗣  
主人 野村 万祿  
太郎冠者 野村 万蔵

修行を終えた山伏が竹藪で寝ていると、主人の命令で長杖の薬となるかたつむりを求めるにいたる太閤冠者に出くわします。かたつむりを知らない冠者は黒い兜布を戴いた山伏が寝ているのを見てかたつむりと思いつくわけを、太郎冠者は愚かに見とらつた山伏が寝かたつむりを思ひ、同行してくれと言ふ太郎冠者に囃子物に響きあつてならん行つちにならぬ。この演目は観客まで囃子に乗りキウキとした気分になる狂言の代表曲といえます。